

I 第2期中期目標期間の実績 —平成24～平成29年度(2012～2017年度)—

○教育研究等の質の向上

- 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)、入学者の受入れ方針(アドミッションポリシー)を策定し、教育の充実に向けたPDCAサイクルを確立
- 学生の学修成果を可視化し、課題発見を支援する学習ポートフォリオの実施
- 国際文化学科の廃止と国際総合学科の新設、美術科デザイン専攻のコース制導入、情報コミュニケーション学科のコース制の見直しといった、特色を生かした学科再編等の実施

○業務運営の改善

- 学科再編等の実施に合わせた教員の適切な採用と年齢構成の見直し

○財務内容

- 教育・研究における文化庁委託事業の受託や科研費の獲得、施設整備費における国の交付金の活用

○施設整備

- キャンパス整備における基本設計の完了、学習環境への影響を最小限に抑え、安全性を確保した工事の施工

II 第3期中期目標(案)のコンセプト —平成30～35年度(2018～2023年度)—

県立美術館(OPAM)の開館、県内各地でのアートプロジェクトの広がりといった新たな動き、今後のキャンパス整備の完成を踏まえ、芸術系と人文系の学科を併設する全国唯一の公立短期大学として、大分県の地方創生に資する人材の育成、地域への貢献を積極的に展開

1 芸術系と人文系の学科の併設を生かした職業人の育成

「創造県おおいた」の推進に向けて、芸術や観光、ITなどの分野において、発想力や実践力に加え、芸術的な感覚も持った職業人を育成

2 県立美術館やリニューアルキャンパスを活用、クリエイティブ産業と連携した教育機能の充実強化

アートマネジメントプログラムの展開をはじめ、地域課題に応じたカリキュラムやコースの創設等を検討・実施

高大連携による人材の育成や学生の確保に向けて、芸術緑丘高校との連携を強化

3 地方創生に資する地域貢献

学生の活力を生かしてイベントや地域づくりへ貢献、県民の多様な学習意欲・ニーズを踏まえた生涯学習の充実強化

III 第3期中期目標(案)のポイント

目的 芸術及び文化に関する専門の学芸の教授研究を通じて、幅広い教養及び優れた技能を有し、実践・応用する人間性豊かな人材を育成し、もって大分県の地方創生及び芸術文化の振興に寄与することを目的とする。

1 地方創生を支える職業人の育成

- 芸術系学科と人文系学科からなる大学の特色を生かし、学科横断的な教育を展開し、地域づくりや産業の発展に、芸術的な感覚や知識等も生かして寄与する職業人の育成を図る。
- サービスラーニングの更なる展開、インターンシップの活用を進め、職業現場を重視した実践的な教育の充実を図る。

2 教育・研究機能の充実強化

- アートマネジメントプログラムの展開をはじめ、本学の特色を生かして地域課題にも応じた適切なカリキュラムやコースのあり方の検討を行い、教育機能の充実を図る。
- 学生へ丁寧な修学支援を行い、職業人として若しくは進学して新たな道に踏み出せるよう進路を指導し、職域の拡大や学修意欲の向上を図ることで、高い就職率・進学率を達成する。
- 高大連携による人材の育成や学生の確保に向けて、芸術緑丘高校との連携強化を図る。
- 産業の発展に資するなど、質の高い研究活動を推進するとともに、作品制作・演奏などの創造的な表現活動を展開する。

3 積極的な地域貢献の展開

- 地域社会のニーズに応え、地域に開かれた大学として、生涯学習講座の充実など、県民に広く学習機会を提供する。
- 県立美術館や県立総合文化センターとの連携をはじめ、地域社会、自治体、他の教育機関、企業・NPO法人等との連携を推進し、県民の芸術文化の向上や地域づくり、産業の発展に貢献する。

4 業務運営の改善・効率化

- 理事長・学長のリーダーシップを発揮できるようマネジメント機能を強化するとともに、機動的・戦略的な大学運営に向けた教員、職員それぞれの資質・能力の向上と教員・職員の連携体制を確保する。

5 施設の整備・活用

- キャンパス整備を着実に実行し、完了させるとともに、必要な施設・設備を整備し、活用を図る。